

# 新潟県のがん登録

内藤 みち子\* 湯川 美幸\*

## 1) はじめに

新潟県では平成3年4月より新潟県環境保健部（現在の福祉保健部）が実施主体となり、がん登録事業を開始し、今年で発足6年目をむかえた。これまでに平成3年、平成4年、平成5年と標準集計を出すことができたので、その内容を検討した。

## 2) 登録状況

毎年の登録罹患数は平成3年が10,491例、平成4年が11,055例、平成5年が10,488例となっており、ほぼ安定している。DCO%は平成3年が37.3%、平成4年が28.2%、平成5年が25.1%と徐々に良くなってきているが、まだ当面の目標とされている20%には達していない。I/D比は平成3年が1.99、平成4年が1.95、平成5年が1.87であった。届出例に関する組織診断率（細胞診を含む）は3年とも90%以上であった。

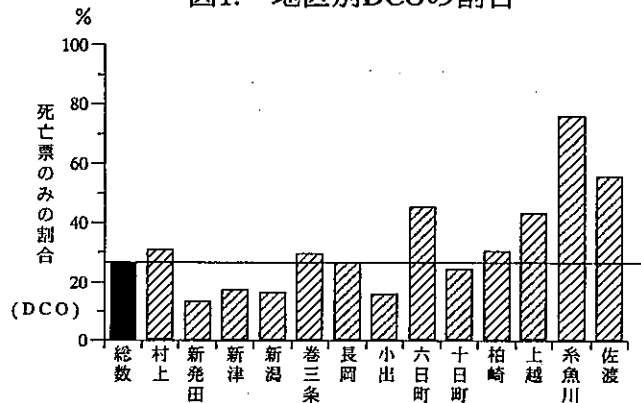
表1. 新潟県のがん

| 平成年 | 人口        | 悪性新生物  |       | 登録精度 |      |      |
|-----|-----------|--------|-------|------|------|------|
|     |           | 登録罹患数  | 死亡数   | DCO% | I/D  | H/R  |
| 3   | 2,469,106 | 10,491 | 5,280 | 37.3 | 1.99 | 90.9 |
| 4   | 2,478,107 | 11,055 | 5,513 | 28.2 | 1.95 | 91.0 |
| 5   | 2,481,446 | 10,488 | 5,404 | 25.1 | 1.87 | 92.0 |

全体のDCO%は良くなってきているが、図1のように地域別にはかなりのばらつきがあるので、まず特に目立つ4地区に重点的に届出

依頼を行い、平均したDCO%にした上で全体の届出精度を上げる必要がある。

図1. 地区別DCOの割合



## 3) 新潟県のがんの状況

登録例から新潟県のがんの状況を検討した。平成3年の途中から事業を開始したので、平成4年と平成5年の登録例を使って数値を計算した。

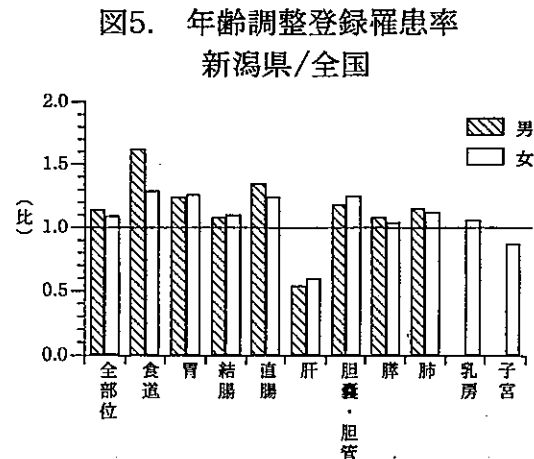
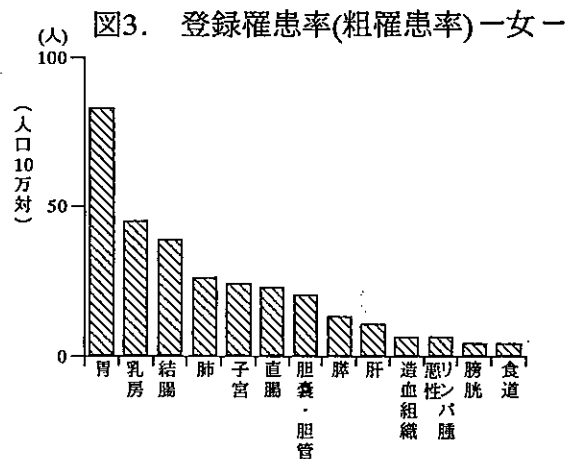
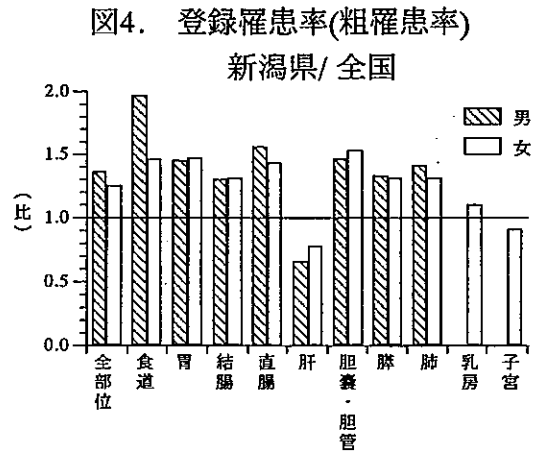
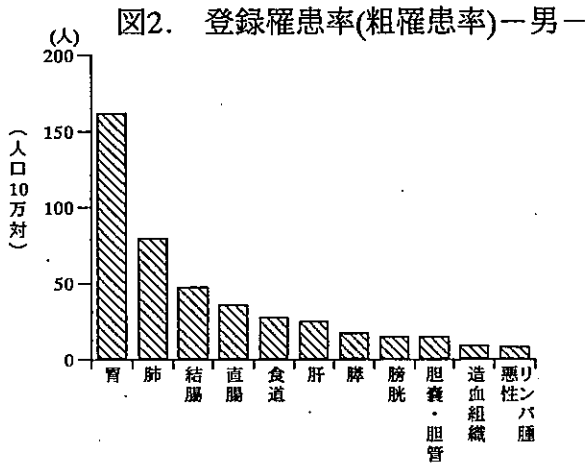
まず部位別の人口10万対の登録罹患率（いわゆる粗罹患率）で順位をみると、男では1位：胃、2位：肺、3位：結腸、4位：直腸、5位：食道、6位：肝であった（図2）。世界人口を使って年齢調整をしても順位は変わらなかった。

同様に女での順位は、1位：胃、2位：乳房、3位：結腸、4位：肺、5位：子宮、6位：直腸であった（図3）。年齢調整したところ、4位：子宮、5位：肺と順位が変わった。

次に全国の状況と比べてみた。図4は新潟県の登録罹患率（粗罹患率）を全国値で割っ

\*新潟県がん登録室

〒951 新潟市川岸町2-15-3 新潟県立がんセンター内 TEL 025-230-3927 FAX 025-230-3928



て比を出したものである。全国値は厚生省「地域がん登録」研究班（主任研究者 花井 彩）による1991年の値<sup>1)</sup>を使用した。登録罹患率（粗罹患率）では、比は全がんで男1.36、女1.25と大きな値になり、新潟県のがんの実数は全国の値に比べて多いといえる。

同じように年齢調整登録罹患率（年齢調整罹患率）で全国値との比を計算し、図5に示した。全がんで男1.14、女1.09と、比の値が粗率でみた場合よりも小さくなったが、なお新潟県で、全国より10%程度高くなった。このことから、新潟県が高齢者の多い県であることや、高齢者に多いがんの多い県であることが考えられる。部位別に新潟県の特徴をみると（図5）、食道、胃、直腸、胆のう・胆管などの消化管のがんでこの比が大きく、肝がんで比が小さかった。

#### 4) 新潟県の胃がん

がんの中で新潟県で特に多い胃がんを検討してみた（表2）。

表2. 新潟県の胃がん

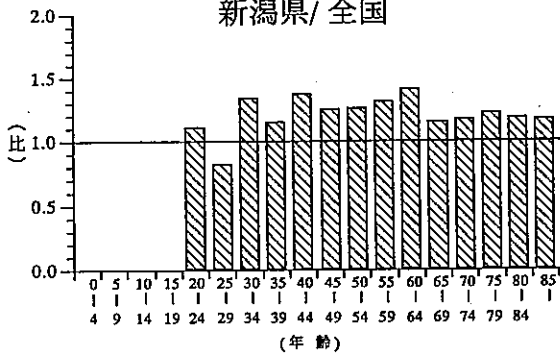
| 罹患率と全国比                         | 男     | 女    |
|---------------------------------|-------|------|
| 登録罹患率（人口10万対）<br>（粗罹患率）         | 161.8 | 82.7 |
| 全国比                             | 1.45  | 1.47 |
| 年齢調整登録罹患率（ $\mu$ ）<br>（年齢調整罹患率） | 91.7  | 38.2 |
| 全国比                             | 1.24  | 1.26 |

登録罹患率（粗罹患率）は男161.8、女82.7で、全国比は男1.45、女1.47であった。これを世界人口を用いて年齢調整すると、登録罹患率は男91.7、女38.2、全国比は男1.24、女1.26と値は小さくなったが、年齢調整の前後共に、

全国に比べて大きく、新潟県は胃がんが多い県といえそうである。

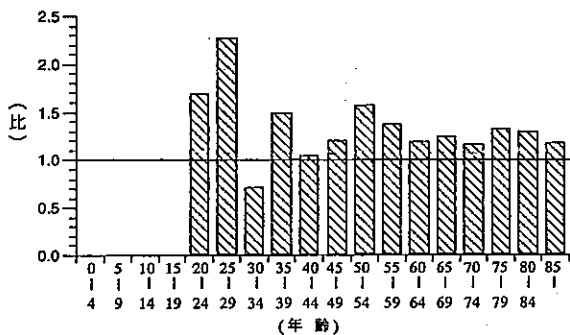
罹患年齢の特徴をみるために、登録罹患率を5歳階級別に算出して全国比をとりグラフにした。男では図6のようになり、30～64歳あたりの比が大きい傾向がみられ、比較的若い世代で胃がんが多いようなので、今後注目してみたい。

図6. 胃癌 年齢階級別—男—  
新潟県/全国



同様に女で年齢階級別にグラフを作ると図7になり、20才代で突出し、30代後半と50代とで高くなっていた。今後も観察を続けたい。

図7. 胃癌 年齢階級別—女—  
新潟県/全国



胃がん症例数を表3にまとめた。平成4年の登録罹患数は3,119例、うち届出罹患数は2,319例で、平成5年の登録罹患数は2,868例、届出罹患数は2,276例であった。集検・健康診断で発見された胃がんは平成4年788例、平成5年747例で、2年間を平均した場合の届出例中に占める割合は33.4%であった。また、早

期がんと記載されていたものは、平成4年996例、平成5年1,044例で、届出例に対して2年平均で44.4%であった。手術例は平成4年1,808例、平成5年1,811例であった。この手術例に関して、新潟県立がんセンターの佐々木による新潟県における胃癌手術例調査の報告書<sup>2)</sup>では、平成2年の数値で、手術例が2,507例となっており、先の数値はこれに対して約73%を占めることとなるので、届出率はこれくらいではないかと推定できる。

内視鏡手術例は平成4年163例、平成5年180例であったが、外来症例の届出はあまり良くないので、実際の内視鏡症例はもっと多いものと思われ、外来症例の届出依頼も、一つの課題としてあげられる。

表3. 胃がん症例数

| 項目         | 平成4年        | 平成5年          |
|------------|-------------|---------------|
| 登録罹患数      | 3,119       | 2,868         |
| 届出罹患数      | 2,319       | 2,276         |
| 集検・健康診断発見例 | 788 (34.0%) | 747 (32.8%)   |
| 早期がん症例     | 996 (43.5%) | 1,044 (45.9%) |
| 手術例        | 1,808       | 1,811         |
| 内視鏡手術例     | 163         | 180           |

### 5) おわりに

ここで報告したデータは登録開始直後のものであり、DCO%も高く、また、わずか2年間の症例の集計なので、新潟県のがんの状況を正確に把握したとはいえない。今後、届出精度の高い登録状況となった時点で、生存率などのデータも加えて、改めて検討したいと考えている。

### 参考文献

- 1) 花井彩(厚生省がん研究助成金研究班主任研究者):地域がん登録の精度向上と活用に関する研究、平成7年度報告書、1996年。
- 2) 佐々木壽英:続新潟県の胃がん、新潟県立がんセンター新潟病院、新潟、1986年。